第4回検討委員会意見に対する対応表

資料２

No.	対象箇所	ページ	意見	対応(案)	
1	基本目標1	P12	基本目標の方向性の1つ目、「探究的な学びの過程を重視した教科等横断的な学習や探究学習の充実を図ります。」は内容が重複しているのではないか。	意見を踏まえ文言整理	修正
2	基本目標1	P12	基本目標の方向性の2つ目は、文章を分轄した方が読みやすいのではないか。	意見を踏まえ文言整理	修正
3	基本施策6	P19他	「教育・保育」と「教育」は統一しなくても良いのか。	幼児期は幼児教育(＝教育)を基本とするが、預かり保育など保育に関する場合に限り「保育」とする。	修正
4	基本施策6	P19	基本施策6は「(1) 生きる力の基礎を育む教育の推進」にすべてまとめられているが、取組を分けても良いのではないか。	意見を踏まえ構成を(1)生きる力の基礎を育む教育の推進 (2)地域における子育て支援の推進 (3)就学前の望ましい教育・保育環境の整備 の3つに分けて整理する。	修正
5	基本施策6	P19	公立の保護者を対象としたアンケートは数も限定的で、「幼児期の教育の充実」の成果指標としてふさわしいか。	・当該指標は総合計画との整合を図るため現状どおりとする。 ・なお、意見を踏まえ民間の就学前教育・保育施設も含む幼児教育の資質向上のため「就学前施設における園内研修会(公開保育)の回数」を新たに指標として設定する。	現案どおり ＋追記
6	基本施策6	P19	適正な就学指導に関する項目を追加した方が良いのではないか。	・基本施策1の主な取組に「幼児期から児童期への円滑な接続」に含まれている。「再掲」は可能な限り掲載しないこととしており現案どおりとする。 ・なお、幼児教育における特別支援の取り組みは追記する。⇒「幼児一人ひとりの発達の特性に応じた個別の支援と就学に向けた連携」	現案どおり ＋追記
7	基本施策7	P20	郷土愛に関するアンケートの設問(住み続けたいかどうか)が適切であったか。	アンケート項目については次回に向けた課題とする。	―
8	基本施策7	P22	「三田市人権共生条例」を正式名で記載するとともに、施行年も記載すべきでは	意見を踏まえて修正する ※注釈はP14に記載	修正
9	基本施策7	P22	三田の資源を使った教育について、ダイナミックなふるさと学習として、もう少し詳しく記載しても良いのでは	新たな主な取組に「こどもの育ちを地域全体で支える三田ならでは取組の推進」を記載し、「・・トライやる・ウィークや農体験など、多様な企業・団体・地域人材の参画による学びの推進」、「三田の豊かな教育資源・地域資源を生かした「こうみん未来塾」の推進」を説明に加えた。	追記

No.	対象箇所	ページ	意見	対応(案)	
10	基本施策7	P22	こうみん未来塾は取り組んできたものを記載しなくても良いのか。	上記No.9のとおり「こうみん未来塾」を追記した。	追記
11	基本施策7	P22	商工会などの商業団体との連携について記載をした方が良いのでは	上記No.9のとおり「・・・多様な企業・団体・地域人材の参画による学びの推進」を追記した。	追記
12	基本施策7	P22	成果指標が「トライやるウィーク」に関する指標になっているが、主な取組等に記載がない。	上記No.9のとおり「トライやる・ウィーク」を追記した。	追記
13	基本施策7	P26	「地域」という表現の捉え方がそれぞれ違う。三田市全体か、学区かなどにより、部活動などの再編の阻害になる可能性もある。	本計画における「地域」の考え方を巻末用語解説に追記する。 ⇒「家庭・地域とともにこどもの学びを支援する」ことを基本目標2に示しています。ここでいう地域の範囲は校区や区・自治会をはじめ、隣近所から市全体まで様々な地域が考えられます。本計画では、地域を限定せずそれぞれの立場や施策ごとに定義することとしています。	追記
14	基本施策7	P21 P7	・「地域クラブ」、「部活動の地域展開」について、注目度の高いキーワードにもなっているため表現を記載したほう良いのでは また、交通支援なども記載した方が良いのでは	・地域の受け皿として「地域のスポーツ団体」や「こどもたちが将来にわたり地域で多様なスポーツ・文化芸術活動に親しめる機会の確保」には地域クラブを含めた取り組み例である。現在積極的な施策展開を進めているが、令和13年度が目標年度であることから例示しない(←総合計画と同じ考え方)。なお、関連する記載を並べ替えを行った。 ・また、意見のとおり部活動の地域展開は積極的に取り組んできており、「第3期計画の振り返りからみた三田市の現状(p7)」に追記する。	現状どおり ＋追記
15	基本施策7	P21	社会教育施設を活用した「学びの好循環」に「ひとはく」がはいっていない。	当該主な取組には人と自然の博物館の役割は大きいが、22ページの(4)に「三田のよさを活かした学びの環境づくり」に有馬富士自然学習センターとあわせて記載した。	現案どおり